

水稲新品種「あきたこまちR」

秋田県農業試験場

1 この品種を開発した目的

カドミウム汚染米は出穂期前後の湛水管理で発生を抑制できますが、気象条件等によっては発生するリスクがあります。また、近年国際基準値が定められたヒ素は湛水条件下でイネに吸収されやすくなります。そこで、カドミウムとヒ素の同時低減を図るため、カドミウム低吸収性品種を開発しました。

2 品種の特性・用途・セールスポイント

- ① 「あきたこまち」と比較して出穂期、成熟期や稈長、穂長、穂数等の主要特性は同等
- ② 収量、玄米の大きさ(千粒重)等は「あきたこまち」と同等であり、食味は「あきたこまち」並の良食味
- ③ 茎葉及び玄米のカドミウム濃度は「あきたこまち」より著しく低い



あきたこまちR あきたこまち

[玄米]



あきたこまちR

あきたこまち

「あきたこまちR」の生育および収量

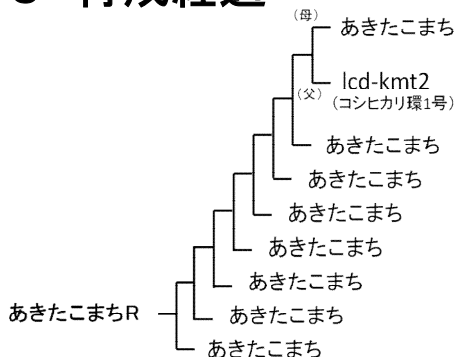
品種名	出穂期 月/日	成熟期 月/日	成熟期調査			倒伏 0~5	葉いもち 0~5	穂いもち 0~5	玄米重 kg/a	千粒重 g	玄米品質 1~9
			稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²						
あきたこまちR	7/31	9/11	72.5	17.6	390	0.0	0.0	0.0	56.0	22.8	2.6
あきたこまち	7/31	9/10	73.4	17.1	405	0.0	0.0	0.0	56.4	22.9	2.4

注)データは農業試験場における2017~2020年の平均。

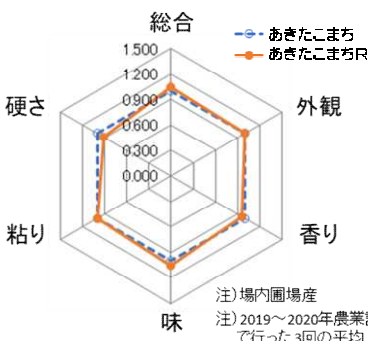
注)倒伏は数値が小さいほど倒伏しにくいことを示す。

注)玄米品質は数値が小さいほど優れていることを示す。

3 育成経過



4 食味官能評価



5 カドミウム濃度

年次		あきたこまちR	あきたこまち
2017	茎葉 (mg/kg)	0.16	1.75
	玄米 (mg/kg)	0.01*	0.17
2018	茎葉 (mg/kg)	0.04*	1.12
	玄米 (mg/kg)	0.01*	0.16
2019	茎葉 (mg/kg)	0.06*	1.07
	玄米 (mg/kg)	0.01*	0.14

注)*は定量下限以下。

※秋田県内現地圃場で栽培(土壌カドミウム濃度0.46~0.63mg/kg)。
注)2019~2020年農業試験場で行った3回の平均

★この品種に関する問い合わせ先★

秋田県農業試験場 電話 018-881-3312